

消さないで あなたの心の 注意の火



境港市消防 保安協会 会報

発行所

境港市消防保安協会

境港市中野町2116

境港消防署内

電話 47-0119

FAX 47-0031

印刷所 (有)共同印刷所

平成19年3月1日

第48号

火の用心

ごあいさつ

境港市消防保安協会

会長 渡辺 明彦



新年明けましておめでとうございます。
皆様方には、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、会員企業各位、関係機関の皆様には、当協会の運営に当たりまして、格別のご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

まず、昨年は、集中豪雨などの自然災害が全国的に多発し、多くの方が犠牲になりました。当市におきましても、七月には記録的な集中豪雨に見舞われ、各所で道路の冠水や床下浸水の被害を受けたところです。

さて、当市の火災概況によりまして、昨年の火災発生状況は、

建物火災を中心に二十三件、罹災棟数も三十七棟、損害額は八千四百万円余ということでした。昨年に比較して残念ながら大幅な増加となっております。

当協会といたしましては、引き続き一層の防災意識の高揚を図るとともに、地域に根ざした防災活動の推進に努めて参りたいと考えております。

皆様方には本年も変わります、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

結びに、会員各位のますますのご発展とご健勝、ご活躍をご祈念申し上げまして年頭のご挨拶とさせていただきます。



「会報」創刊

昭和36年4月

「境港市消防保安協会会報」も号を重ねて四十八号を数えました。

会報は、保安協会と会員を結ぶ絆の役割を果たしています。そして予防消防の啓発に大きな成果を収めて来ました。

今回は、その「会報」の沿革をたどってみたいと思います。

境港市消防保安協会は、ご承知のとおり危険物保安協会として発足し、昭和三十八年五月、今の消防保安協会に改称されました。よって、会報の名称も境港市消防保安協会会報に改められ、題字もそれ以来、今の体裁で歴史を刻んでいます。

創刊号は、昭和三十六年四月一日付となっています。御年四十五歳。先輩が、



えんどう・りょう氏
昭和11年 境港市生まれ。
境港市民生部長、特選現
別養護老人ホームを経て、教育
愛苑長を経て、津村教育
委員、日吉村教育委員、
委員会教育委員。

「消防保安協会のおいたち」(五)

遠 藤 量

たゆまず綴って来られた会報に心から愛着を覚えます。

創刊号の一面トップは、「境港市危険物保安協会発足する」会長に足立忠次氏の大見出しが初々しく躍っています。

足立忠次初代会長、「発刊に当って」社会生活の進歩向上は、人間がいかに光や熱を征服し、これを利用するかであり、急速なる科学の発達、石炭産業から化学、原子産業へと逐次進展して…。

会長の格調高い挨拶が載っています。

創刊当時、副会長堀田靖郎さん、消防長林義人さんの力強いメッセージがあり、昭和三十五年度の事業計画がかかげられています。

二面には、当協会々則と新陣容の役員名簿が懐かしい。

顧問 境港市長

足立 実

境港市議会議長

中村実三

境港商工会議所会頭

松本 豊

境港警察署長

木本 正

相談役 境港市消防長

林 義人

会 長 山陰石油(株)

足立忠次

副会長 堀田石油(合)

堀田靖郎

理 事

十六 名

監 事

二 名

賛助会員

六十四 名

普通会員

七十三名

新誕生の保安協会員、錚々たるメンバーで今日を築かれた礎の方々です。



会 報 (創刊号)

創刊号は元消防長中嶋登美夫さんが保存しておられました。第二号から第五号までを探しております。会社で、個人でお持ちの方、お借りしたいと思います。それにしても歴史、沿革を綴る時、書類、資料の保存することの重要性を痛感します。貴重な資料など大切に長く保存したいものです。

「会報沿革」次号へ続く。

(元境港市消防本部職員)

試験情報

平成十九年度の試験研究センターが行う各試験の日程をお知らせします。

危険物取扱者試験にあつては、昨年度から三回の実施となりましたが、三回目は乙種の実施ですので、ご注意ください。

*危険物取扱者試験

一回目(甲種、乙種、丙種)

試験日 平成十九年六月十七日(日)

願書受付期間 平成十九年四月十二日(木)

二回目(甲種、乙種、丙種)

試験日 平成十九年十月二十八日(日)

願書受付期間 平成十九年九月四日(火)

三回目(乙種のみ)

試験日 平成二十年二月三日(日)

願書受付期間 平成十九年十二月十日(月)

試験会場 一回目、二回目及び三回目とも

米子コンベンションセンター

米子職業能力開発促進センター

なお、危険物取扱者試験準備講習会に

ついては、一回目と二回目の試験にあわ

せて開催する予定にしております。

*消防設備士試験

試験日 平成十九年八月二十六日(日)

願書受付期間 平成十九年六月二十五日(月)

試験種別 甲種、乙種

試験会場 米子コンベンションセンター

七月六日(金)

第二十七回 事業所対抗消火競技会

平成十八年九月二十七日（水）、境港消防署において当協会主催の消火競技会を開催しました。

当日は、天候にも恵まれ会員事業所より、十二チーム二十四名の参加をいただき、消火器による油火災の迅速な消火、チームで連携をとって、屋内消火栓のホースを延長し放水により標的を倒すという火災時の初期対応の機敏さを競っていただきました。

十九年度も九月ごろに開催を予定しておりますので、職員さんの研修の機会として、多くの事業所からの参加をお願いいたします。



第一位

(株)アクティー境港営業所Aチーム

長崎 幹 青・榎 本

顕 さん

第二位

(株)吉備総合電設トライケミカルチーム

福 富

良・小 森 光 一 さん

第三位

(株)アクティー境港営業所Bチーム

田 中 誠 一・中 谷

誠 さん



平成十八年度表彰関係

鳥取県危険物安全大会

平成十八年鳥取県危険物安全大会が六月九日倉吉市の「倉吉シティホテル」で行われ当協会関係者が表彰の栄に輝かれました。

*鳥取県知事表彰

(危険物優良事業所)

東西オイルターミナル(株)境港油槽所

*鳥取県危険物保安協会連合会長表彰

(危険物保安功労者表彰)

堀田 收(堀田石油株式会社)

青木 昭吾(境港海陸運送株式会社)

境港市消防保安協会総会

六月六日総会の席上次の事業所が受賞されました。

*境港市消防保安協会会長表彰

事業所

(協会理事) さんせき物流有限会社

(協会理事) 境港海陸運送株式会社



平成十八年度

先進地視察研修

「災害の備えは災害を経験して、はじめて気がつく。」の宣伝文句につられて、三次元コンピュータ画像の最新技術を駆使した機器により、各種災害の恐怖の世界をリアルに体験できる京都市民防災センターを目指して平成十八年十月二十六日、渡辺会長をはじめ七名で境港消防署を出発しました。

京都市内で迷子になりながらも防災センターに昼過ぎに到着し、館内説明を受けた後、



風速32メートルに顔面の筋肉も揺れる

○地震体験（震度6強の揺れが途中で弱まったら直ちにガス、ストーブの消火を行う。すぐに強く揺れだすので手間取っていると、床の上を転がることになる。）

○避難体験（ホテル宿泊中、火災が発生したという想定で濃煙の充満した迷路を誘導灯のかすかな明かりを頼りに避難する。）

○強風体験（風速三十二メートルの強風発生装置により強風下における走行などの困難性を確認する。）



余談ですが、研修後、金閣寺に立ち寄りましたが紅葉にまだ二週間ほど早く京都の紅葉を堪能の目論見が外れ、翌日帰路につきました。
(事務局員)



などを半日コースとして体験をし、今後の防災研修の実施内容に練り込むべきものもあり、おおいに参考となりました。

住宅防火対策の推進について

境港消防署長

内田 幸治



境港市の平成十八年の火災発生件数は二十三件（平成十七年は十

一件）でした。

建物火災にあつては、十八件で平成十七年と比較して十四件の増加となっております。

全焼火災は四件で、その内の三件は、深夜（0時）から早朝（六時）までの家人の寝静まった、また、人通りの少ない時間帯に発生しております。

以上のことより、住宅火災の早期発見、早期通報の確立が急務となつていふと考えられ、境港消防署の平成十九年の重点目標を住宅火災の減少及び被害の軽減とし、火災の早期発見および早期通報のため、引き続き

住宅用火災警報器の設置促進を図っていく所存です。

